愛媛大学教育学部

第140号

同窓会報

愛媛大学教育学部同窓会事務局

〒790-8577 松山市文京町３番
愛媛大学教育学部事務課内
☎ (089)927－9383(直通) FAX(089)927－9395
E-mail:dosokai.ed.ehime@gmail.com

ご挨拶

愛媛大学教育学部
同窓会会長
髙橋　治郎

同窓会会員の皆様、お元気にお過ごしのことと拝察いたします。私事ですが、寒暖差の激しい日々に翻弄されながら物価高にも耐え、何とか新年度を迎えることができました。

さて、この三月二十四日に大学の卒業式・修了式があり、教育学部では学部生百七十人、院生七十人（教育実践高度化専攻六十人、心理発達臨床専攻十人）が大学を巣立って行きました。卒業生・修了生には教育学部同窓会から祝辞を述べるとともに電波時計や昨年度の同窓会報を贈り、健康と時間管理に留意、同窓会と連絡を密に取るよう伝えました。早速、十数名から新しい住所の知らせが届いています。彼、彼女らの活躍を期待しています。

そして四月七日には入学式がおこなわれ、学部生百七十一人（一年次百六十九人、二年次編入二人）、院生六十八人（教育実践高度化専攻五十六人、心理発達臨床専攻十二人）を迎えました。キャンパス内はまた、賑やかさを取り戻しています。少子化で大学に進学してくる学生数は激減していますが大学院生を受け入れ、何とか運営ができています。学生・院生の数が減りますと大学や同窓会は成り立ちません。とにかく、子どもの数が減り続け昨年は七十二万人程しか生まれていません。私たち団塊の世代は二百四十万人くらいの同級生がいたのですが……、今は七十二万人、……三分の一です。この少子化で、次々と短期大学が募集停止になり廃学になっています。もっともその前に多くの小学校や中学校、高等学校が廃校になっていますが……。

季節的には地球温暖化の影響で、一年が猛暑の夏と冬の二季のみとなり、春と秋が無くなったような気がします。雨もほどほどに降ればよいのに降れば豪雨、降って欲しい所には一滴も降らないという状況です。ですから洪水と土砂災害で大きな被害が出る一方、旱魃で農作物が育たず社会に大きな損失をもたらしています。こうした影響かキャベツや白菜等の野菜がトンデモない高値となり、さらにはお米が品薄になり高騰する事態となりました。備蓄米を市場に出しても値上がりは止まりません。困ったことです。

一方、温暖化という気候変動、その乾燥化で今年山火事がロサンゼルスで、そして岩手県の大船渡、岡山、今治・西条、宮崎、さらには韓国で発生し、大きな被害をもたらしました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。今治には防災教育や理科教育のお手伝いでよく行っていますし、地形や地質について知っていますので、今後の注意点を述べてみます。火災のあった所は「花崗岩」地帯です。花崗岩は地下深い場所でマグマがゆっくり冷え固まって出来た岩石です。造岩鉱物は、石英、長石、黒雲母で、肉眼でも見える大きさです。この地下深くでできた花崗岩が地殻変動で地表に出てきます。この地表に出てきた岩石を大島石とか御影石、庵治石等という商標名で売買しています。これらを石材、墓石や石垣などとして利用しているのです。花崗岩は地表で日に照らされたり雨に打たれたりすると造岩鉱物の石英や長石、黒雲母の熱膨張係数が違うのでバラバラに分離します。すなわちマサ（真砂）化し、これが雨や河川水、海水に洗われ白砂となります。瀬戸内海を形容する「白砂青松」の白砂です。今回の山火事で花崗岩が焼かれ、マサ化が一層進んでいます。大雨が降ればこのマサ土が谷に流れ込み土石流などの土砂災害を引き起こします。降った雨水をストックする木々や落ち葉が燃えて無くなっていますから、土砂災害には要注意です。土砂災害にならずともマサ土が山から下流に流れ河床に堆積してゆきます。そして天井川を形成してゆきます。大明神川（川の下をトンネルでＪＲ予讃線が走る）や蒼社川などは天井川として有名ですが、高縄半島東部の多くの河川は天井川となっており、これらの河川にさらに土砂が堆積し河床が上昇するのです。したがって天井川の危険度が増すのです。

私の仕事柄、どうしても自然災害へと目が向いてしまいますが、昨年は正月早々能登半島で大きな地震がありました。そして今年三月末にミャンマーで大地震が発生し、四月五日の時点で三千百四十五人の死者数が出ています。毎年世界のどこかで大地震が発生しているのですが、我が国においても南海トラフ巨大地震が三十年以内に八〇％程度の確率で発生するとされています。三月三十一日に内閣府の有識者検討会が十三年ぶりに新たな被害想定を発表しました。どうも十二、三年前と私たちの防災意識は変わっていないようで、防災・減災対策は進んでいないようです。どうぞ気象災害や土砂災害、地震災害に巻き込まれないようお互い工夫し合って自分や家族、地域を守って行こうではありませんか。もちろん、愛媛大学教育学部同窓会も。

目次

表紙
「We can fly」……竹中　瑞希
題字　元愛大教育学部教授　菊川　國夫
「ご挨拶」……(1)
教育学部同窓会会長　髙橋　治郎
心　響……(2)
「母校に貢献できる喜び」
桐山　真美
研究室紹介……(3)
幼児心理学研究室（幼年教育）
浅川　淳司
職場だより……(5)
・感謝、そして挑戦
西条市・多賀小教諭　上野　心愛
・出会い
松山市・清水小教諭　新家　雅史
・明日も行きたいと思う学級へ
東温市・川上小教諭　水田さくら
・これまでを振り返って
大洲市・長浜小教諭　一文字史歩
・憧れの先生とともに
内子町・天神小教諭　永尾　隼人
・火花が散る瞬間
鬼北町・泉小教諭　加藤　史崚
教育学部トピックス……(11)
・愛媛大学教育学部と宇和島市教育委員会との連携協力に関する覚書の調印式

母校に貢献できる喜び

愛媛大学教育学部同窓会副会長
（松山市立清水小学校校長）
桐山　真美
（昭六三卒）

様々なご縁があり、昨年度に続いて副会長を拝命いたしました。会長を支え、事務局や関係の方々と協力し合い、少しでも母校である愛媛大学と同窓会に貢献したいと考えます。

実は、昨年度から勤務している松山市立清水小学校も、私が多感な学童期に六年間通い続けた母校です。役職定年を控え、校長としての最後の勤務校が母校であることは教師冥利に尽きる喜ばしいことです。

昨年四月に着任し、早々に学校内を一周してみました。修繕を加えられてはいるものの、昔と同じ体育館やプール、正門や石碑。自分が所属していた器楽部がコンクールで西日本一になったときの記念の盾もガラスケースの中に見つけました。逆に、子どもの頃には広いと思っていた昇降口がとても狭かったり、給食センターが校外にできたことにより校内にあった給食室は多目的室になっていたり。変わらない所や変わった所を懐かしい気持ちでたくさん見つけることができました。

我が母校・松山市立清水小学校

本校の最も大きな変化は、松山市立姫山小学校が分離して生じた空き教室を利用し、平成十四年に地域包括センターと地域の高齢者が集う「いきがい交流センターしみず」の施設が校内にできたことです。今では、センターを通して地域の方と交流することが本校の特色ある教育の柱となっています。一年生から六年生まで、全ての学年のカリキュラムには地域の方との交流が位置付けられています。昔の遊び、地域の文化財についてのお話、餅つき、福祉体験など、発達段階に応じて多岐に渡る活動を行っています。また、家庭科の調理実習の見守りやミシンの学習の支援などをボランティアで手伝ってくださる方々もおり、子どもの技能の向上はもちろん、安全面でもたいへん助かっています。

このような心温まる交流活動の要になっているのが、清水校区の子どもたちをみんなで守り育てようという地域の方々の優しさです。とりわけ、本校の卒業生の皆さんは、「ふるさと清水」や清水小学校のすばらしい伝統や文化を受け継いでもらいたい、後輩のために役に立ちたいという思いでいっぱいのようです。

地域の方のそうした姿を拝見するたび、私も、校長として、また、卒業生の一人として、清水っ子と母校のために貢献できるよう頑張らねばと、モチベーションが高まります。

私の学校経営のポリシーは「笑顔あふれる学校づくり」です。子どもも笑顔、保護者・地域の方も笑顔、教師も笑顔。そんな学校をめざします……ということを、ことあるごとに言葉にして周囲にお伝えしています。

一学期の朝会では、全校の子どもたちに、「自分も笑顔、友達も笑顔になるにはどうすればよいのかな」という話をしました。

先生方には、「それぞれの立場で子どもたちを笑顔にしてください」と常々お願いしています。

ＰＴＡの方たちも、子どもたちの笑顔のために、「できる人ができるときに　できることを」を合言葉にボランティア活動に励んでくださっています。

ＰＴＡと言えば、実は、私の父は、かつて清水小学校のＰＴＡ会長でした。仕事で忙しく、帰宅するのも遅い父親でしたが、勤務時間の融通がきく職種だったことと、世話好きだったことからＰＴＡにかかわるようになり、一介の学級役員から調査広報部長、最終的には周囲のご推薦で会長にまで上り詰めました。

当時の私は、「ＰＴＡの仕事をするくらいなら、一緒に遊んでよ」と少し恨めしく思ったこともありました。しかし、今となっては、亡くなった父も清水小学校のために尽力してくれていたんだなと思うと感無量であり、誇らしく思います。

「順送り」という言葉があります。親から子へ、先輩から後輩へ、先生から子どもへ……清水っ子を愛し、「ふるさと清水」や清水小学校の伝統や文化を大切にしようという思いは、昔も今も脈々と受け継がれているのです。

地域の方と１年生の交流

・教育学部と附属学校園の先生方による愛媛大学教育学部合同研修会が開催されました
・「こころをマネジメントするメンタルヘルス研修会」が開催されました
教育学部の授業実践……(13)
先輩を偲ぶ……(15)
「あしあと(13)」先輩たちのあしあと
同窓会事務局
表紙の作品について……(16)
会員の声……(17)
・「大拙・英訳「教行信証」の研究(二)」……吉原　宏文
令和七年度支部長会報告……(19)
事業・決算報告……(21)
役員表……(22)
支部活動支援金交付について……(23)
部活動紹介……(24)
愛媛大学サイクリング部
校友会からのお知らせ……(25)
教育学部同窓会からのお知らせ……(26)
懇親会のお知らせ……(27)
放送大学入学生募集のお知らせ……(27)
叙勲・敬弔・寄付者名……(28)
裏表紙……(29)
会員写真館
準会員作品紹介

研究室紹介

幼児心理学研究室（幼年教育）

准教授　浅川　淳司　先生

前回、幼年教育サブコースの研究室紹介を行ったのは二〇一二年であり、今回は約一三年ぶりのご紹介となります。本稿では、二〇一三年以降のサブコースの動向についてご報告いたします。

私自身は、二〇二二年四月に深田昭三先生の後任として着任いたしました。まだ十分に理解しきれていない部分もありますが、自身の理解を深める意味でも、まずは現在の幼年教育サブコースの状況からご紹介させていただきます。

幼年教育サブコースの変遷

愛媛大学教育学部の幼年教育サブコースは、乳幼児期から小学校低学年までの子どもの発達と教育に関する専門性を持つ教員・保育士の養成を目指して発展してきました。

幼年教育サブコースの歴史は一九七八年に幼稚園教員養成課程が設置されたことに始まりますが、二〇〇九年には学校教育教員養成課程が指定保育士養成施設の認可を受け、現在でも保育士資格の取得が可能です。

二〇一四年には教育学部三号館の改修が完了しました。この改修により、三号館の最上階に幼年教育や保育士関係の授業のための演習室、学生用の部屋、教員研究室などが集約されました。特に「保育観察室」は保育室を模した施設として整備され、授業や行事で使用されるほか、模擬保育やさまざまな製作活動の場として活用されるようになりました。

二〇一六年度には学部改組が行われ、学校教育教員養成課程は初等教育コースと中等教育コースに分かれ、幼年教育は初等教育コース内の「幼年教育サブコース」として再編されました。この改組により、幼児教育の専門性を保ちながらも、小学校教育との連携がより強化される体制となりました。

二〇二四年度には再び学部改組が実施され、学校教育教員養成課程は「教育発達実践コース」と「初等中等教科コース」の二つに再編されました。幼年教育サブコースは教育発達実践コース内に位置づけられています。

この最新の改組では、変化する子育て環境や教育ニーズに対応するため、より実践的な教育・研究体制の構築が目指されています。幼年教育サブコースでは「人間の発達についての深い知識と実践力を重視したカリキュラム、豊富な実習体験により、保幼小連携」を重視した教育を展開しています。

幼年教育サブコースの体制

二〇二五年度現在、幼年教育サブコースは教員二名（青井倫子と浅川淳司）によって運営されています。学生数は、一回生が六名、二回生が七名、三回生が六名、四回生が七名の合計二六名です。

二〇一三年度以降の入学者の出身県を整理すると、最も多いのは愛媛県出身者で、全体の約四五％を占めています。ついで多いのが広島県出身者で約二八％です。香川県や徳島県、高知県出身者は、それぞれ四～五％程度にとどまっています。広島県内の国立大学である広島大学では保育士資格を取得できないので、国立大学を志望しつつ保育士資格の取得を目指す広島県の高校生にとって、本サブコースが有力な選択肢の一つとなっていると考えられます。

カリキュラムの内容

幼年教育サブコースでは、〇歳から小学校低学年の子どもたちを対象に、専門的な知識と実践力を備えた教師・保育士の育成を目指しています。卒業にあたっては、幼稚園教諭一種免許状と小学校教諭一種免許状の両方を取得することが求められ、さらに保育士資格も取得できるよう、カリキュラムが工夫されています。これにより、幼稚園・保育所・小学校の連携を見据えた、幅広い専門性を身につけることが可能です。

カリキュラムの大きな特徴は、一回生の段階から専門的な学びを深められる点にあります。たとえば、一年生前期から「幼児発達・家庭支援心理学」「幼児と言葉」「乳児保育Ⅰ」などの専門科目が配置されており、学生は早い段階から保育者としての意識をもちながら大学生活を送ることができます。

また、実習にも力を入れています。一回生から「観察実習」が始まり、附属幼稚園で子どもたちと直接関わる体験を通して、幼児理解を深めることができます。学年が進むごとに、より実践的な力を養うための実習が段階的に組み込まれており、理論と実践を行き来しながら学びを深めていく教育方針が貫かれています。

卒業生の動向

卒業生の約七五％が保育所・幼稚園・認定こども園といった就学前施設に就職しています。特に二〇一三年度以降、就職先の傾向には大きな変化が見られます。それ以前は、幼稚園が主な就職先でしたが、現在では保育所への就職が半数以上を占めています。

この背景には、共働き世帯の増加や少子化による幼稚園の減少があり、保育所の需要が高まっていることが挙げられます。特に公立保育所では、安定した採用が続いており、学生にとっても受験しやすい環境となっています。また、近年では保育所や幼稚園が認定こども園に移行するケースも増えてきており、現状はまだ多くはありませんが、今後は認定こども園への就職も増加すると予想されます。

学生と話をしていると、就職にあたって賃金や労働時間、職場の人間関係に不安に感じている様子が伺えます。保育のやりがいや社会的意義については十分に理解しているものの、こうした要因から進路を変更する学生も実際にいます。国も保育者の労働環境改善に取り組んでおり、処遇改善加算や勤務環境の整備などが進められています。今後は、こうした改善の成果を積極的に発信し、学生が安心して保育の道を選べるような情報提供を心がけたいと考えています。

幼児心理学研究室の取り組み

ここからは幼児心理研究室の取り組みについて紹介いたします。

私は、乳幼児期の認知発達、特に「数量の理解」と「手指」の関係について研究を続けています。心理学というと、「心」を科学的に研究する学問というイメージを持たれる方が多いかもしれません。ただ、その「心」は、しばしば身体や動きとは切り離されたものとして語られがちです。私自身は、そうした見方に違和感を持ってきました。人間の知性は、本当に身体や運動とは無関係に育つものなのでしょうか？この問いが、私の研究の出発点になっています。

数量能力は、人間の知性の中でも特に抽象的な操作を必要とする能力です。この高度に抽象的な能力が、身体、特に手指やその運動とどのように関係しているのかを明らかにすることができれば、心と身体・運動との関係を再考する手がかりになると考えました。

例えば、「五＋三＝八」という計算は、目に見えない概念を扱う力を必要とします。ところが、私たちはそのような抽象的な数の世界に入っていくとき、自然と「指」を使って数えたり、計算したりしています。このような日常的な行動にヒントを得て、「手指」と「数量の理解」がどのように関係しているのかを明らかにすることを、研究のテーマに据えました。

私自身の研究も含めて、これまで行われてきた幼児期を中心とした研究から、以下のような知見が得られています。まず、計算能力の発達過程で手指を使った経験のある子どものほうが、計算能力が伸びていく傾向があることが明らかになっています。また、自分の指の位置や手の形を適切に認識できている子どもは数の大小比較や計算能力においても高い能力を示すことが報告されています。さらに、手指を器用に動かせる子どもほど、数をかぞえる力を早く身につけ、計算能力が高いことが示されています。これらの知見は、数量能力が単独で発達するのではなく、身体、特に手指との相互作用の中で発達していくことを示唆しています。

現在は、保育の現場で子どもたちがどのように身体を使って数に触れているのかに注目し、観察やアンケート調査も行っています。今後、同窓会の皆さまの園や学校にご協力をお願いすることがあるかもしれません。その際は、ぜひご理解とご協力をいただけますと幸いです。

また最近では、発達観の歴史的変遷にも関心を持ち、調査を進めています。発達心理学が学問として成立した当初には、発達について多様な見方がありました。「正しい発達」があるかのように語られることが多く、それが保護者や保育者・教師に不安を与えている側面もあると感じています。歴史的な視点から発達観を捉え直すことで、現代の発達観を相対化し、多様な子どもの姿を受け入れる視点を広げていければと考えています。

職場だより

感謝、そして挑戦

西条市
多賀小教諭
上野　心愛
（令六卒）

高校二年生の冬、進路に迷っていた私は、当時の担任の先生の一言で教員を志すようになり、愛媛大学を受験し、無事合格した。四月は、コロナ禍に突入して間もなかったため、大学に通うことも授業を受けることもできず、ただただ不安な日々を過ごしていたことを覚えている。少しずつ日常を取り戻しつつあった大学三年生のとき、教職に就こうか、就職活動をして一般企業で働こうかと自分の将来に迷っていた私に転機が訪れる。それは、教育実習だ。子どもたちが伸び伸びと学んでいる環境、生き生きとした笑顔に感銘を受けた。また、実習生の仲間と一つの授業を作りあげる難しさやおもしろさを知り、「私も子どもたちに分かりやすくて楽しい授業をしたい。」「子どもの成長を近くで見届けたい。」と思い、教員を志すことに決めた。それから、所属ゼミの日野先生に同行し、研修会に参加させていただくことで、学びを深めた。大学時代に参加した研修会での学びや繋がりが役に立ったと思うことが多くあり、行ってよかったと思うと同時に、声を掛けてくださった日野先生には感謝の気持ちでいっぱいである。

晴れて社会人となった四月から時は経ち……初任者としての、長いようであっという間の一年を無事に終えることができた。一年前の四月が遥か昔に感じるほど、非常に濃い一年だった。怒涛の一年間を振り返りながら、学んだことを述べようと思う。

与えられたことを必死にこなした一学期。子どもたちとの出会いにドキドキしながら、緊張した面持ちで自己紹介をしたことを覚えている。始業式、入学式、参観日、運動会……と迫りくる行事や、想像以上に多い仕事の量に圧倒され、なんとか日々を乗り切っていたように思う。ゴールデンウィークまでの一か月間、なかなか思うように進まない授業、子どもとの信頼関係づくりの難しさを痛感する出来事に悩んだこともあった。そんなときに、先輩の先生方が声を掛けてくださり、話を聞いてもらったことで、心が楽になり、前向きな気持ちに切り替えることができた。一年を通して、温かい職員室の雰囲気に何度も救われたので、先生方には本当に感謝している。

少しずつ学校生活に慣れてきた二学期。「ここな先生」と呼ばれることにも慣れてきて、授業をする楽しさが少しずつ分かってきた。二回目の研究授業があるため、夏休みから十月にかけて、必死で国語「ちいちゃんのかげおくり」の教材研究に励んだ。教材研究をして、自分なりに作者の伝えたいことを汲み取れたときの爽快感が今でも忘れられない。授業を行うと、教材に対する子どもたちの向き合い方がより真剣になった気がしたので、改めて教材研究の大切さを感じるきっかけとなった。一方で、子どもたちもクラスの雰囲気に慣れてきたのか、トラブルや授業中の態度が気になって注意をする回数が増えた。同じことを繰り返し、できるようになるまで粘り強く指導することは、子どもの成長のためにとても大切なことだと分かった。同時に、叱るだけではなく、よいところを褒めて伸ばすことも非常に重要だと学んだ。

時が流れるのがいつもより早く感じた三学期。授業は、学級経営とも密接に繋がっていることを学んだ。相手の話をよく聞くこと、発言の仕方、相手の気持ちを考えて行動することなど、四月から積み上げることや粘り強く指導することが大切だと分かった。また、三月が近づくにつれて、クラスの子どもたちの一年間の成長をふと感じることが多くなった。そのときに初めて、教員としての達成感を味わうことができた。

一年を振り返ると、子どもから、先輩の先生方から、同期からなど、様々な方向から学びを得ることができたと感じる。その学びのおかげで、自分自身が教員として少しずつ成長することができている。四月からは教員二年目であるが、「笑顔（愛顔）・挑戦・感謝」をキーワードに、一年目で学んだことを実践に活かしたい。二年目は、なんと、最高学年である六年生の担任をすることになった。校務分掌も増え、昨年度以上に責任を持って仕事に取り組まなければならないと思っている。目まぐるしく毎日が過ぎていくが、一日一日を大切にして、子どもたちにとっても私にとっても思い出に残る一年にしたいと考えている。これからも、感謝の気持ちを忘れず、目標とする「分かりやすく楽しい授業ができる、一人一人の子どもに寄り添う教員」を目指して、いろいろなことにチャレンジして、子どもたちとともに成長していきたい。

出会い

松山市
清水小教諭
新家　雅史
（平二八卒）

採用試験に受かってからもうすぐ十年が経とうとしています。初任者として勤務していた私も今や中堅として、体育主任や生徒指導主事など、学校を支える立場となりました。しかし、学級経営や授業力など、まだまだなところも多く、日々奮闘しているところです。そんな私を支えてくれているのは、人との出会いです。教員生活を始めてから、私はたくさんの児童、保護者、そして先生に出会いました。教員をしていて辛く感じる時期もありました。しかし、それでも今教員でいられるのは周りの人たちのおかげです。今日は、私の教員生活での素敵な出会いをいくつか紹介したいと思います。

㈠　同期の仲間たちと初任者指導の先生との出会い

私の心の大きな支えとなっているのが、同期の仲間たちです。コミュニケーション能力がとても高くて誰にでも気さくに話しかけ、つながりを作ることが上手な人や、知識が豊富で様々な視点から物事を見取り自分の考えを発信できる人、そして、物事がうまくいかなくても決してくじけず、どんなことにも挑戦しやり抜いた強い精神力を持った人など、たくさんの素敵な同期がいました。ただ、この同期たちが自分にとってスペシャルになるきっかけを作ってくれた人がいました。我々の心に、優しくでも熱く教員としての火を灯してくれた当時の初任者指導の指導主事の先生です。ある日の初任者研修（初任研）で、講師をお招きしてマナー講座がありました。研修の終わり、その指導主事の先生は私たちの研修の態度を見て、「それで良いのでしょうか。」と全体に問い掛けました。私はどきっとしました。数回の初任研を経て、どこか気が緩んでいたのを見抜かれていたと思ったのです。後日談として、それは別の初任者に向けた言葉だったことが分かりましたが、その時の私たちのグループでは、「このままではいかん。もう一度、初心に戻って頑張ろう。」と研修に対する気持ちが大きく変化した瞬間でした。厳しく注意して聞かせるのではなく、私たちの心に直接問い掛け、自分で考えるきっかけを与えてくれたことで、私たちは自分たちで話し合い、解決し力に変えることができ、そしてそれを繰り返すことで同期の絆を深めることにつながりました。指導主事の先生のもと、介護施設での書道パフォーマンスや、私たちの代で最後となってしまったリーダーズ研修など、たくさんの経験をさせていただきました。私たちが迷ったり道を踏み外したりしそうな時、決まっていつも最高のタイミングで「それで良いのでしょうか。」と声を掛けてくださり、とても丁寧に指導してくださったことを本当に感謝しております。私にとって初任者研修はいつまでも忘れることのない大切な時間となりました。そういえば最近、同期の一人がマイホームを購入しました。同期数人でバーベキューをすることに。そこには、私たちと火を囲んでビール片手に笑っている初任者指導の先生の姿も。肉を焼きながら、世間話から教育の話まで。今でも私たちの初任者研修は続いています。

㈡　尊敬できる先輩先生との出会い

経験から、現場には自分と気が合う先生、合わない先生がいました。そこで学んだことは「謙虚」であることです。気が合う先生からはたくさんのことを学びます。勝手に学び取っていきます。大事なのは、合わないと感じた先生との関わり方です。同じ学年部になったその方とは当初、子どもたちに対する指導の考え方が全く違い、職員室で険悪とまではいかないものの、釈然としない場面が多くありました。しかし、同じ学年部で活動を続けていくと、その先生が、どういう意図で児童と接しているのかが分かってきました。その先生の指導は、私とはアプローチが違うだけで、児童の成長を心から願う気持ちは同じでした。そこからは、自分の考えを主張するのを控え、まずはその先生が言われていることを実践していきました。うまくいかないこともありましたが、その実践からたくさんのことを学ぶことができました。児童と関わる上で、自分の教育の芯となる思いは大切にすべきだと思います。しかし、「謙虚」であることで、見えていなかった多くの学びを得ることができます。今では、その先生とは大の仲良しです。その先生との一年間のおかげで、視野や、児童との接し方の幅などが広がりました。自分が持っていない視点や価値観を持っている人、または自分と同じように、大切にしていることを持っている人の言葉をこれからも「謙虚」に受け止めていきたいと思います。

初任校での濃い三年間、異動先でのあの一年、そして色々な方との出会い、そして清水小学校での今。本当はまだまだたくさんの先生との出会いを紹介したいところではありますが、字数の関係上叶いません。それはまたどこかで、お会いした時に是非お話ししましょう。

先生との出会いだけでなく、たくさんの児童との出会いや保護者の方、ＰＴＡの方との出会いもかけがえのないものでした。毎日違った顔を見せてくれて、いつまでも成長を驚かせてくれる児童のみんな。誕生日にお手製のくす玉やクラッカーを用意してサプライズでお祝いをしてくれた小学一年生。中学校に進学しても毎年夢に向かって頑張っていることを報告してくれる卒業生。何年もずっと年賀状のやり取りをし続けている児童や保護者の方。夏のキャンプ等で本気を出しまくる地域の方や学校が変わっても飲みに行こうと誘ってくださるＰＴＡの方々。本当にたくさんの温かいつながりが私を支え成長させてくれました。ありがとうございます。

明日も行きたいと思う学級へ

東温市
川上小教諭
水田さくら
（令七卒）

「先生！」「さくら先生ー！」

にぎやかな声が今日も教室にあふれている。私は毎日、何回子どもたちに「先生」と呼ばれているだろう。何十回？何百回？そんな毎日が四月から続いて今は五月下旬、おそらく今までに何千回、何万回と呼ばれている。その度に私は、どんな顔でどんな表情で子どもたちに答えているだろうか。

私は、小学校三年生のときの学級担任の先生のことが大好きで、先生の温かい人柄と教師という職業に憧れを持ち、教師を目指すようになった。当時初任者だったその先生は、私たちとのコミュニケーションをとても大切にしてくださった。先生と目が合って、名前を呼んでもらって、話を聞いてもらうことに嬉しさを感じ、「明日も学校に行きたい」と思った。休み時間には一緒に外で遊んで、行事ではクラスでお揃いの飾りを作って、ギター片手にたくさんの歌を歌って、いつまでも話を聞いてくれて……。そんな中で私は、自分の考えを素直に表現することの喜びを知った。その後出会った先生方や教員である両親にも多くの影響を受け、教職の道を進むことに迷いがなかった私は、地元である愛媛大学教育学部小学校サブコースへの進学を決めた。

私が愛媛大学へ入学した頃は新型コロナウイルスの影響が続いており、入学式も代表者だけでリモートで行われる状況だった。大学一年生の頃は対面での授業はほとんどなく、思い描いていた大学生活ではなかったが、理想とする教師になれるよう自分でやるべきことを考えて積み重ねた時間や経験は、今につながっていると実感している。

愛媛大学を卒業後、東温市立川上小学校で勤務することになった。地元である東温市で、夢であった小学校の教員になることができて、嬉しさと同時に身が引き締まる思いがした。三年生の学級担任になることが決まってから、あっという間に始業式の日。緊張はあまりなく、子どもたちとの出会いにわくわくした気持ちで教室に入った。クラスの三十一人の子どもたちは個性豊かで明るく、素直な心がとても素敵である。

教員生活がスタートして二ヶ月、授業が思い通りになることはほとんどないが、授業の中で個を大切にすることはいつも意識している。児童の反応や様子から、児童間で理解の差が大きいと感じた際には、丁寧な復習や周囲へ頼ることを促すなど、誰も置いていかないようにする方法を模索し続ける毎日だ。初任者は授業数が決まっているため、私が授業を行うのは主に算数、国語、体育、道徳などであるが、専科の先生が授業をしてくださる他教科もできる限り見に行くようにしている。普段見られない児童の姿や表情は新鮮で、児童の興味や関心を知ることができると同時に、自分の授業でもそんな児童の姿を引き出したいと思いを新たにするのだ。個々の成長の瞬間に出会い、褒める種を見つけること、それは今後の子どもたちとのコミュニケーションのきっかけとなるだろう。

川上小学校では、今年から運動会が五月末の開催となり、学級経営や授業もままならない中で学校行事を迎えることとなった。中学年の表現を指導することになった私だが、ダンスは決して得意な方ではなく、教えた経験ももちろんないので、最初は不安な気持ちでいっぱいだった。ところが、練習を重ねるごとに子どもたちのやる気に後押しされ、気が付けばダンスの時間が楽しみになっていた。朝の会や休み時間に自ら音楽をかけて踊る子どもたち。教師の声掛けではなく自主的に、「ここ、こうしたらいいよ。」とダンスの苦手な子に教える姿。学年を超えて、互いの良さを見つけて褒め合う様子。一曲のダンスを踊ることで、踊れるようになること以上のすばらしい場面を、たくさん目の当たりにした。それは、毎日小さな感動を積み重ねるような体験で、子どもの持つ可能性に私は驚いた。

本番では、「アドベンチャー」の曲に乗せて、百十七人が笑顔で力いっぱい踊った。冒険に出かけるわくわくを、かけがえのない時間を仲間と過ごす喜びを。この曲は、コロナ禍を抜けてみんなが明るい未来に飛び立つようなイメージで作られたという。児童の表情や動きには、それがあふれていた。子どもたちでなければ表現できないものが、確かにそこにはあった。教師とは、そんな感動を子どもたちと共に分かち合えるすばらしい仕事であることを、この運動会を通して私は実感した。

さて、運動会が終わって日常生活に戻っても、忙しい毎日は続く。私はそんな中で、子どもたちと丁寧に関わり、子どもたちが「明日も学校に行きたい」と思えるような学級づくりをしていきたいと思う。目を合わせて、子どもたちの名前を呼んで、話を聞いたり話をしたり。一緒に時間を過ごして、笑ったり怒ったり、心配したり楽しんだり……。子どもたちの可能性は無限にある。そんな一人一人の持つ良さを見つけて伸ばしていくことが私の今の目標だ。そして、子どもたちのたくさんの「先生！」に、答えることができる教師になれるよう、成長していきたい。

これまでを振り返って

大洲市
長浜小教諭
一文字史歩
（令四卒）

教員生活四年目になりました。あっという間の三年間。いろいろなことがありました。

大学院を卒業し、「やっと夢である教員として仕事ができる。」そんな思いでどきどきわくわく希望を膨らませていました。赴任地が決まったとき、友人の多くが中予勤務と知らされる中、私だけ南予勤務だと分かりました。一人で縁もゆかりもない土地に行く不安と、友人が近くにいない寂しさでいっぱいになってしまったのを今でも覚えています。

令和四年四月。大洲市立長浜小学校での勤務がスタートしました。知らない土地、慣れない環境でのスタートに不安な気持ちもありましたが、長浜小学校は若手も多く、話しやすい先生方ばかりで、すぐに安心して働けるようになりました。

一年目は五年生を担任しました。大学院のころに附属小で五年生の算数を教えていたこともあり、その経験も生かせると意気込んでいました。学級では、認め合いを大事にしようと決め、学級経営に取り組みました。四月はうまくいっているかのように見えた学級経営も五月六月と進むにつれてうまくいかなくなっていました。今思えば、自分自身の中で「認める」の定義を間違えていたように思います。子どもの全てを認めてあげたいという気持ちから、様々な面で許容範囲が広くなりすぎてしまっていました。指導の仕方もよく分かっていなかったのだと思います。うまくいかずに困っているときに、いつも学年主任の先生が相談にのってくださいました。一緒に指導方法を考えてくださったり、指導をしている場面に立ち会わせてもらったりしました。そこから、自分以外の先生の指導方法をよく見るようになりました。自分のやり方でうまくいかなかったら、ほかの先生の指導法を取り入れてみたり、自分なりに工夫したりしながら指導できるようになりましたが、二学期以降も学級経営は大変でした。「私が助けるから」という学年主任の言葉に何度も支えられました。うまくいかなくて当たり前だと自分に言い聞かせ、繰り返し諦めずに指導しました。たくさんの先生方に助けてもらった一年間だったと思います。

一年目は大変だったこともたくさんありますが、その中でやりがいも見つけることができました。それは授業の面白さです。子どもの「分かった」と輝く声や表情に、もっと子どもたちにとって分かりやすい授業がしたいと思うようになりました。

二年目は二年生を担任しました。一年目の学級経営の反省を生かして、学習規律の徹底と環境整備に力を入れました。低学年ということもあり、話す言葉や指示の出し方、活動の順番を意識するようになりました。また「遊びを通して学ぶ」ことの面白さにも気付きました。特に、生活科では、子どもたちが遊びを通して試行錯誤

する姿を見ることができました。遊びの中での無意識の学びを充実させ、それを教師が自覚化させることで子どもの中で新たな気付きが生まれる「学びのサイクル」の重要性を、授業を通して感じました。

三年目は一年生を担任しました。何をしても初めてのことばかりで、キラキラと目が輝く子どもたちを見て、愛おしさを感じました。愛おしさやかわいさの反面、初めてのことを教える大変さも感じました。どうしたら分かりやすく指示が伝えられるか、話を聞きたいと思わせられるか、一生懸命考えました。手を変え品を変え、いろいろなことを試しながら指導をしました。小学校生活の基盤となる一年生の担任ができたことは、私にとってかけがえのない財産になりました。

四年目となる今年は、三年生を担任しています。今年度、力を入れているのは、総合的な学習の時間です。「長浜探検隊」をテーマとして、地域との関わりを大切にしながら学習を進めています。自然豊かで温かみのある地域の良さを、長浜にしかない場所や地域の人と触れ合う中で、子どもたちに感じてほしいと思っています。長浜小学校の教育目標は、「ふるさとを愛し、心きれいにたくましく生きる長浜の子どもを育てる」です。地元に愛着を持ち、子どもが大きくなったときに地元の良さを思い出して大切にできるような授業づくりをしていきたいと考えています。

あっという間の三年間でしたが、毎年、新しい学年に挑戦させてもらい、教員としての貴重な経験ができています。それぞれの学年で培った経験や学びを、これからの教員生活でも生かしていきたいです。まだまだ教員として、駆け出したばかりですが、初心を忘れることなく、子どもとともに成長し続ける教員でありたいと思います。

憧れの先生とともに

内子町
天神小教諭
永尾　隼人
（平二二卒）

教師になって十五年目を迎えた今年。私は新たな環境での挑戦をスタートさせました。長年勤めてきた学校を離れ、新しい職場へと移ったのです。環境が変わることへの不安もありましたが、それ以上に私の心を躍らせたのは、新しい学校に、私が小学生の頃に憧れていた先生がいらっしゃるということでした。

その先生は、私がまだ無邪気だった子ども時代に、毎日学校へ行くのが楽しみになるような授業や関わりをしてくれた方です。明るく、優しく、そして一人一人の子どもの気持ちに丁寧に寄り添ってくれる先生でした。私は当時、その先生のようになりたいと思い、「先生」という職業に強い憧れを持つようになりました。その想いを胸に、教育の道を志し、気がつけば十五年という歳月が流れていました。

そして今、まさにその憧れの先生と同じ職場で働いています。最初は少し緊張もしましたが、先生は昔と変わらぬ優しい笑顔で迎えてくださいました。「永尾君と一緒に働けてうれしいわ」と声をかけていただいたときは、本当に夢のようでした。それは、子ども時代の私が今の自分を見て喜んでくれているような、不思議で温かい気持ちになりました。

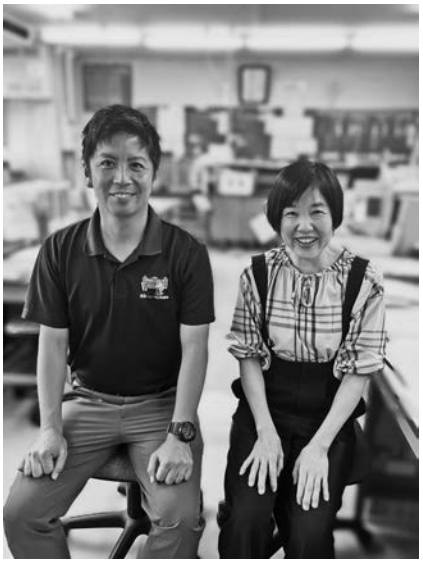
現在の職場でも、私は日々、子どもたちと真剣に向き合っています。教師として大切にしている信念は、「子ども同士が思いやりを持って接すること」「一生懸命がかっこいいと思える集団をつくること」です。学力を伸ばすことはもちろん大切ですが、それ以上に、子どもたちが他者の気持ちに目を向け、自分の行動に責任を持ち、自分なりにベストを尽くすことの大切さに気づけるような指導を心掛けています。

日々の授業や生活の中で、子どもたちが互いに助け合い、「ありがとう」や「ごめんね」を自然に言い合える場面に出会うと、教師としてのやりがいを強く感じます。また、失敗しても諦めずに努力を続ける子どもたちの姿から、私自身もたくさんの勇気と元気をもらっています。

そんな毎日を送る中で、あの頃憧れていた先生から、「あなたの指導は一生懸命さが伝わってきて、子どもたちが生き生きしていますね」と言っていただけたときは、本当に胸がいっぱいになりました。まるで子ども時代に戻ったかのような気持ちで、「自分、頑張ってきてよかったな」と心から思いました。

教師という仕事は、時に大変で、思うようにいかないこともあります。けれど、子どもたちの成長に立ち会えるこの仕事に、私は誇りを持っています。そして今、子どもの頃に憧れていた先生のように、私自身が誰かの「憧れ」になれる存在でありたいと願っています。

これからも、「思いやり」と「一生懸命」をキーワードに、子どもたちと真摯に向き合い続けたいと思います。時には悩み、立ち止まることがあっても、あの先生がそうしてくれたように、私もまた誰かの心に残る教師でありたい。そんな想いを胸に、これからも情熱を持って歩んでいきます。



火花が散る瞬間

鬼北町
泉小教諭
加藤　史峻
（令二卒）

「火花が散る瞬間」

この言葉に馴染みのある方がいらっしゃるかもしれません。これは、元スターバックスジャパンCEOの岩田松雄さんの著書「MISSION」の中に出てくる言葉です。岩田さんいわく、火花が散る瞬間とは、仕事において最も大切にすべき瞬間のことだそうです。私は、五年間の教員生活における火花が散る瞬間を思い返すと、特に思い出深い二つの出来事が思い出されました。

まず一つ目は、初任者のころに携わった陸上指導でのことです。私は当時、走り高跳びの担当でした。練習の参加者の中に、私が担任をしていたA君がいました。学級では、A君に話し掛けても素っ気ない様子で、心の通い合った人間関係とはあまり言えなかったと思います。そんなA君と練習をしていたとき、A君がスランプに陥りました。何度繰り返しても今まで跳べていた高さを跳べない状況が続き、A君も私も少し焦りを感じていました。一度初心に戻って基礎から練習に励みましたが、何度も失敗する日々が続きました。そしてある日、今まで跳べていた高さよりも低い高さではありましたが、やっとA君が綺麗に跳ぶことができました。A君がバーを越えた時、A君と私の目が合いました。この瞬間こそ、私にとって火花が散った瞬間でした。心の底から喜びが沸き上がり、心が通じ合ったように感じました。そのときのA君の表情や周りの友達の様子などは今でも鮮明に覚えており、忘れられない一瞬です。当時、終わりの会では「○○さんのナイス」という時間を設けていました。一日を振り返り、友達に感謝を伝えたり誰かの良かった場面を紹介したりする時間です。A君は普段、この時間にあまり発表をしませんが、その日は真っ先に手を上げて発表しました。

「先生のおかげで、走り高跳びで上手に跳べるようになりました。」という内容です。子どもたちからも拍手を送られ、うれしい気持ちや恥ずかしい気持ちで照れ臭かったことを覚えています。

二つ目は、私が二年目のときの出来事です。当時の学級には、どうしても宿題を出せないBくんがいました。勉強が苦手なわけではありませんでしたが、なぜか宿題を出しませんでした。なんとか宿題を出せるようになるために様々な角度からアプローチをしましたが、一向に宿題を出す気配がありません。ある日、時間を十分に取り、宿題についてのBくんの気持ちや考えを聞いてみました。その子は家に帰るとゲームをしてしまうことや一人では勉強するのが難しいということなどを正直に伝えてくれました。それ以来、Bくんの表情は今まで以上に明るくなりました。Bくんはよく折り紙を折って私にくれていましたが、その翌日にも折り紙をくれました。しかし、その折り紙はいつもと違いました。開いてみると、「先生ありがとう」という言葉が書かれていました。Bくんと目が合い、二人で照れくさそうに笑い合ったことを覚えています。心が通い合ったように感じた、火花の散る瞬間だったと思います。相手の立場に立ち、理解することの大切さを実感した出来事でした。それ以降も、その子は宿題を出すことなく、休み時間に一緒にする日々が続きましたが、今まで以上に心の通った関係ができていたと感じます。

この二つの経験を思い返して気づいたことは、私にとって火花の散る瞬間とは、子どもたちと心が通い合った瞬間だということです。学校生活において子どもたちと心が通い合う瞬間はたくさんあります。しかし、その瞬間を迎えられるかどうかは自分自身にかかっていると気づきました。

初任者の頃の私は、子どもファーストという目標のもとに学級経営に励んでいました。毎日昼休みに子どもたちと遊び、本気で鬼ごっこをするのが日課でした。そのおかげか、子どもたちとのつながりが日に日に増していくことを実感していました。しかし、最近の私は学級担任以外の校務分掌の仕事に追われ、初任者の頃に比べて目の前にいる子どもたちと心を通わせることができていなかったように思います。この五年間で、できるようになったことが増えてきた一方、最も重要な部分を見落としていたのかもしれません。働き方改革が意識される現代において、勤務時間ばかりに目を向けていた自分がいます。今回の執筆をきっかけに、大切なことを再認識することができました。今一度、目の前にいる子どもたちと喜怒哀楽の感情を共有し、一日一日が忘れられないものとなるよう行動したいと思います。そして、子どもたちの笑顔で溢れる学校を目指します。子どもたちと心を通わせ、火花が散る瞬間で溢れるような教員生活を送っていきたいと思います。

教育学部トピックス

愛媛大学教育学部と宇和島市教育委員会との連携協力に関する覚書の調印式【四月十六日㈬】

令和七年四月十六日㈬、愛媛大学教育学部にて、愛媛大学教育学部と宇和島市教育委員会との連携協力に関する覚書の調印式を行いました。

教育学部と宇和島市教育委員会は、うわじま∞あいだいプロジェクトをはじめ、宇和島市立小中学校の魅力ある学校づくりを推進するための交流を行ってきましたが、両者の関係を一層強化することで、教員養成・研修や教育実践、教育研究の充実・発展を図るために連携協力に関する覚書を締結しました。

当日は、宇和島市教育委員会の山村由美教育長と教育学部の日野克博学部長が覚書を取り交わし、今後、地域創生カリキュラム（地域未来教育演習）や教職大学院の小規模校実習等において、両機関の連携をより一層強めていくことについて合意がなされました。

なお、教育学部はこれまで、愛媛県教育委員会を始め、松山市、今治市、松前町、伊予市、東温市、愛南町、内子町、西条市、上島町、四国中央市の教育委員会とそれぞれ連携協力の覚書を交わし、教育研究や教員研修等の学校支援活動を行うとともに、県内の学校現場における多様な実習等による教員養成を強化し、県内教育の質的向上による地域貢献を果たしています。

愛媛大学ＨＰより

教育学部と附属学校園の先生方による愛媛大学教育学部合同研修会が開催されました

令和七年四月十七日に教育学部と附属学校園の先生方による愛媛大学教育学部合同研修会が開催されました。

全体会では、日野克博合同研修会会長の挨拶の後、今年度着任された新任教員の先生方の紹介、シンポジウムが行われました。

シンポジウムでは、「これからの学部の取り組みと附属学校園との連携のあり方について」というテーマに基づいて、教育学部と附属学校園から報告がありました。

まず、地域創生教育ＷＧ長の藤原一弘先生より「地域枠入試の動向と新たなカリキュラム」について、特に地域と連携した教育活動の取り組みについて説明がありました。

つぎに、才能教育センター長の隅田学先生より「日本発！愛媛大学教育学部附属「才能教育センター（Centre for Gifted Education and Talent DevelopmentEU-GATE）」の設置」について、発表がありました。才能教育の意味やこの分野における本学部の実績について共有することができました。

そして、実習委員会委員長の安部利之先生より「附属学校園における教育実習の現状と今後のあり方」について、発表がありました。コース再編に伴う実習の仕組みの変更点について理解を深めたうえで、教育実習を充実させるために必要なことについて意見交換を行いました。フロアからは、大学と附属学校園との更なる連携を強化することの必要性や教科指導力を高めるための指導のスタンスについてご意見をいただきました。

シンポジウム後は、研究部の部会と情報交換会が実施されました。今後の共同研究に向けた取り組みや教育実習に関する情報交換が行われました。

本研修会の成果をふまえて、学部・附属学校園の連携を通した教育活動や共同研究を推進していきたいと思います。

令和七年三月二日㈰、「こころをマネジメントするメンタルヘルス研修会」が開催されました

令和七年三月二日㈰、「こころをマネジメントするメンタルヘルス研修会」が開催されました。本研修会は、令和六年度愛媛大学ダイバーシティ推進共同研究支援事業の助成を受け実施されました。

研修会の前半は「気質の理解でこころを楽にする」について講義があり、後半は谷口清弥教授による「元気回復行動プランＷＲＡＰを体験しよう！」と題する講演とワークがありました。

当日は十七名が受講し、学生・院生から一般の方まで幅広い層が集い、非常に充実した研修会となりました。参加者からの感想では「自分を見つめ直す機会になりました」「ストレスマネジメントとして自分の強みに焦点を当てるところが目からウロコでした」などたくさんの反響がありました。

今回は、教育学部立松大祐教授が開講している教育学部四年生を対象とした授業を紹介いたします。なお、この紹介内容は愛媛大学ＨＰ掲載の「授業紹介ＩReport」から一部抜粋したものです。

英語教育実践研究

教育学部

掲載内容は取材当時のものです。

担当教員：立松　大祐 / 対象：４年生

この授業は、英語授業実践や卒業研究を行うための専門的な知識と技能を習得し、オリジナリティがあり質の高い英語教育研究を構想するための基本的な知識を身に付けることを目的としています。

小・中・高の英語授業の実践例と関連する理論的背景を学び、英語科教員に必要とされる基礎的・応用的な知識と技能や教員採用試験に対応できる専門的知識と技能を身に付けることができます。

【授業内容】

令和６年７月某日､大雨の中､教育学部２号館４階に向かいました｡教室には､４人ほどが囲めるテーブルが４つあり､どのように座るのかと考えながら､皆さんが来るのを待ちました。大雨で濡れたＴシャツやズボンを拭きながら､次々と６人の受講生が集まり、それぞれが自由に着席して、授業が始まりました。

授業は、全て英語で行われました。最初に、週末に何をしたか？をテーマに、教員と受講生が英語でのコミュニケーションを楽しんでいました。また、フィリピンからの留学生に対し､「nightを漢字で書くと？」と問いかけ、彼がうまく「夜」と書けた際には皆で拍手するなど、とても和やかな雰囲気で授業が進みました。

使用するテキストも全て英語で書かれており、この日のテーマは「Reading」でした。毎回担当となる受講生が事前にテキストを読み込み、ポイントをまとめた資料を作成し、授業でプレゼンを行います。この日は、留学生を含む２人が担当でした。プレゼンの途中での質疑応答もあり、流ちょうな英語が飛び交っていました。英語で書かれたテキストを読む、英語で要約した資料を作成する、英語で発表する、英語で質疑応答する。これらを通して、皆さんの英語力がどんどん上達していくのだと実感しました。また、テキストには､「Reading」を教えるにあたっての課題やポイントが実例を交えて述べられており、皆さんがこれをどのように要約しプレゼンするのか、私自身とても興味深く聞くことができました。リラックスした雰囲気の中で英語でのコミュニケーションが行われる、しかし、議題となっているのは英語教育のあり方というとても重要な事柄である、そのギャップがこの授業の醍醐味のひとつではないかと感じました。

担当の立松教授

しっかり予習されています

２人のプレゼンのあと、全員で「20 Questions」というゲームをしました。テーマは「人・場所・もの」の３パターン。例えば、「東京」の場合、カードに「東京」を示す20の質問が書かれており、出題者が質問を読み上げます。答えがわかった時点で、手を挙げて解答します。もちろん、出題も解答もすべて英語です。本来は、すごろくのようなゲームで、何問目で解答できたかによって進むコマ数が決まり、早いゴールを目指すのですが、この日は全員が順に出題者となり、カードに書かれた質問を読み上げ、より早く解答することを競いました。皆さん、とても楽しそうに取り組んでいました。

授業のあと、集合写真を撮らせていただきました。皆さんの笑顔がこの授業の雰囲気を物語っています。英語教師を目指す方々に、是非受けていただきたい授業です。

ゲームの様子

講義後の集合写真

【教員からのコメント】

本授業では、小・中・高の英語授業の実践例と、関連するアクティブ・ラーニングや英語４技能の指導に関する研究の理論的背景を学びます。これにより、英語科教員に必要とされる基礎的・応用的な知識と技能を身に付けることを目指しています。履修者のほとんどが教員採用試験の受験を予定しており、本授業を通して英語の読解力とコミュニケーション能力を向上させることで、試験にも対応できる力を養います。

具体的には、次の４点に焦点を当てた学習を行います。

1. 英語教育研究と実践に関する論文を読み、効果的に要約する能力を養います。
2. 論文要約の発表と質疑応答を通して、英語プレゼンテーション能力を向上させます。
3. 英語教育研究の意義と課題について理解を深めます。
4. 英語教師として成長するための知識と方法を学びます。

使用する教科書は日本語と英語の専門書２冊であり、全15回の授業では日本語と英語の各１章分を交互に扱います。英語の文献を扱う回では、プレゼンや質疑応答、ディスカッションなどを英語で行います。同様に、日本語の文献を扱う回では、基本的に日本語で授業が進められます。2024年度はフィリピンからの留学生が授業に参加しているため、教科書のトピックに対応するフィリピンの英語教育事情について紹介してもらうなど、学生同士の理解を深める工夫をしています。

さらに、教科書での学習が予定より早く終わった場合には、「Building Empathy」や「20 Questions」などの英語のボードゲームに取り組むことがあります。学生たちはゲームを通して共感力を高め、英語でのコミュニケーションを楽しんでいます。

この授業では、楽しみながら英語力を高め、将来の英語教師としての成長をサポートします。みなさんもぜひ、英語教育の魅力を一緒に探求しましょう！

先輩を偲ぶ

あしあと(13)

先輩たちのあしあと

（教育学部同窓会百周年記念誌より原文のまま抜粋）

女子師範の思い出

愛媛女子師範学校
矢野ハツコ氏寄稿
（大正一一卒）

○　紫の連山、赤い夕日
寒灸や老ひさらばひし双つの掌　　都多女

今年七三になった二つの掌をしみじみみつめて思い出をたどる。私が三津の女子師範に入学したのは、大正七年で一六才から二〇才まで、長い人生の中のたった四年間であったが、社会生活の揺籃時代で忘れることは出来ない。あの偉大な校舎、紫に霞む連峰、海に沈む真赤な夕日、そして恩師と同級生、先輩諸姉といとしんだ下級生達。チチ、チチ、寮舎を囲むポプラ並木に群れる雀の声に、若い熟寝からさめると、東西に伸びた三つの寮、大食堂、浴室、長い渡り廊下を伝って本校、というセットの中に、葡萄茶袴に麻裏といういでたちの三百に近い乙女の一日が始まる。

夕べとなれば夕日を眺め、月見草の咲く運動場で、ふるさとの祖父母をしのんで泣いた。

○　すてきな年中行事

明治四三年が女子部時代の終わりで、三津に移って十年を経過していた私達の時代は、先輩諸姉のアイデアの積み重ねですてきな年中行事が仕上っていた。室長の指導よろしく袴の腰板に雄針雌針のしるしを着けると、まさしく女子師範の生徒、夏ともなれば手縫いの水着が教えられ、瀬戸の海をわがものとして泳ぐのであった。興居島遠泳にはお供の小舟がついた。

遠泳の乙女に従きて師の小舟　　都多女

終わっていただく飴湯のおいしかったこと。節分の夜は年男として本校から男の先生が来て下さった。

年男でありし恩師の若かりし　　都多女

やがて卒業式。泣きながら歌ったあの歌、

蜘蛛はほらに鳥は塒帰り急ぐこの夕

などて一人は行くか名残り惜しのわが友

こうして三回友を送れば次は送られる身。

かたまりて廊下に泣いて卒業す　　都多女

女師生の服輩、袴の後のしるしが雄針・雌針。興居島がむこうに見える。

○　クラスメート

年中行事の中に、ルームメートで家庭の味を満喫することの出来た私達は、また、クラスメートで団結のすばらしさを味わうことが出来た。先年私が推されて大洲市議に立候補した時、いち早くかけつけてマイクを持ってくれたのは同級生であった。その時私は、在校時代のクラス対抗の、校外長距離競争のことを思い出していた。選ばれて一番にスタートを切ったのはよかったが、烈女松江の墓のあたりから一人抜かれ、二人抜かれ、二番選手に渡す時はついにラストとなっていた。抱きかかえて私をいたわり、なぐさめてくれたのがこの同級生であった。幸いにして三期連続当選、終わりを全うすることが出来たのも、この時の友情と教訓のおかげである。スタートよりも終わりを。飛び出すよりも計画を、忘れることが出来ない思い出である。

夕焼けの如き友情当選す　　都多女

近くは一昨年私が叙勲の光栄に浴した時、県内の同級生に見送られ、羽田では東京在住の同級生に迎えられ多大の祝福を受けた。愛媛大学という母校を認識することが出来たのもこの時であった。

○　恩　師

数ある恩師の思い出は、年ふるごとにいやまさる。先年西條市での同級会の時、安野英子さんの肝入りで、関根先生をお迎えし、思い出話に三津の校舎をしのび、いささかでも御老体をお慰め申したことはよい思い出となった。きびしくもおやさしかった田中トミノ先生、御遺族の御多幸をお祈りするばかりである。今回発行の名簿によって恩師の御消息をたしかめる事はうれしいことである。

○　終わりに

日露戦争で父を失い、生母と別離、祖父母の手で育った。気の弱い私が無事に学舎を出、母校大洲校と、農学校に一八年教鞭をとる事の出来たしあわせは、母校と同級生のあたたかいささえであった事を深謝し思い出を終わる。

太山寺―三津―持田―城北

愛媛大学教育学部
西原　明氏寄稿
（昭和二九卒）

太山寺・本坊・本堂・公会堂。こう書き並べると、うららかな春の日、八八か所参りのお遍路さんの姿が連想されそうである。

当時（昭和二二年）の、愛媛師範予科生は、そこに教室があった。主として公会堂で授業をしていたが、教科によっては、本坊や本堂でやっていた。座机（四人ですわる）。教科書は、ザラ紙に印刷されたもの。勉強のことも記憶にないでもないが、それよりも印象に残っているのは、上級生の下級生に対するシゴキである。本坊でよくやられていたと聞く。ある時「おはようございました。」と言って「竹刀」でぶたれたことがある。「おはようございます。」と言わなかったからのようだ。今にして、そのわけがわからない。戦時師範学校の後遺症というものだろう。通学もたいへんなものだった。列車に乗るというのでなく、つめこまれ、ぶらさがってのものだった。

学校復興資金集めをしたのもそのころだった。同郷の本科生、予科生が劇団をつくり、いなか芝居のドサ回りよろしく、市内はもちろん、市外にまで出かけた。劇場や講堂を借り「父帰る」「あゝ無情」などを公演した。その収益は、校舎建築の一助となったのであろう。思い出に残る一こまである。

太山寺から三津女子師範へ。やっと腰掛けで勉強、寺子屋から学校にといった感じである。教科について印象に残っているものは、ここに来てからのものが多い。今でいうクラブ活動もここに来てから参加できた。演劇発表会だの、弁論大会だの、音楽会だのも開かれた。中でも楽しかったのは、ラグビーやサッカー、バスケットなどの対外試合の報告だった。主将が激戦のあとを発表するのだ。それはわたしたち、若者の血潮をたぎらすのに十分のものだった。

愛媛大学教育学部。二年課程と四年課程とがあった。四年課程の学生たちは、一般教養を受講するために文理学部（持田）に通った。きざな言い方ではあるが、「学問する」という実感を得たのは、この時だった。哲学・倫理学・論理学・国文学・心理学等、学問に対する好奇心をかりたてた。朗々と読み上げられた和田茂樹先生の「にごりえ」の一節。守谷、北沢両先生の真実を求めて止まぬ情熱は、わたしたちを自然に図書館へ足を運ばせた。

若さを大地にぶっつけさせたのは、相原体育だった。汗を流し、血をにじませてグランドを馳けまわったラグビー。全く青春を謳歌した忘れ得ぬ思い出である。学内に食堂ができ、食パンが売られ、うどん、飯（めし）が出だしたのもこのころからのように思われる。

城北へ移ったのは、専門課程になってからだ。一般教養の単位の取れなかった者は、持田に行ったり、城北へも来たりであった。歩いて行き来する者が多かった。校舎は、まだバラック。板ばりの廊下も教室も土足で歩く。その時の靴の音、土にまみれた教室が今でも耳と目に残っている。

専門課程にまでこぎつけた同僚たちは、それぞれのコースを選んだ。教育学・心理学を選ぶ者、物理・生物にすすむ者など、将来に夢を託して、マイペースで励んでいた。わたしは心理学を選んだ。三間四方の学生研究室があてがわれた。太山寺―三津―持田―城北を通して、学生時代のふるさとは、この一室である。今もなお、なつかしい。歌も歌った。議論もした……。

表紙の作品について

竹中　瑞希
（令六卒）

『We can fly』

彫刻は、質量をもったモノとして私たちと同じ空間に実在します。重力に逆らう構成が生む浮遊感によって、現実にはない感覚が生まれ、空間そのものを作品に取り込むことで、鑑賞者を作品の世界観に引き込むことができます。本作品は、架空の生き物「ミミズクネコ」が飛び立つ様子を空間全体で表現しました。想像が形となり、素材が作品へと変わる過程を視覚と触覚で実感しながら制作しました。表情や羽の動きから、生き物の感情や迫力を感じ取っていただければ嬉しいです。

会員の声

大拙・英訳「教行信証」の研究(二)

吉原　宏文
(昭四二卒)

ああ、宿縁あって、敬愛してやまない仏教学の碩学・京都大学名誉教授・荒牧典俊先生から、親鸞聖人の大著(magnum opus)「教行信証」の鈴木大拙博士による英訳を読むように薦められ、私のライフワーク(lifework)となった。併し、振り返ってみるとき、教職課程と純粋な学問研究との板挟み(dilemma)に翻弄された半生でもあった。随分な無理が祟り、両親を苦しめ、私自身も苦境に陥った時期もあったが、今、英語の勉強も兼ね、聖人の本典「教行信証」を読める幸せに浸っている。とはいえ、何せ厖大な本典は将にエベレスト(Mt. Everest)の如き巨大な山岳である。これを読解し、領解することは、私ごとき凡人(浅学菲才の身)には至難の業であろう。ともあれ、一歩でも半歩でも登り詰めたい。

永遠の生命についての大きな経(大無量寿経)

真実の教え・浄土真宗

(Ⅱ)顕浄土真実教文類一

私は、敬意を表して、浄土真宗を思案するとき、回向①に二つの形があることを発見する。即ち、往相回向と還相回向である。往相回向について真実の教・行・信・証がある。真実の教えは、大無量寿経において解明される。この経の大意(真髄)は、まず第一に、阿弥陀如来の重要性である。彼は、至高の祈り(弘誓)を超発して、広く、法蔵(真理をおさめた蔵)を開いて功徳の宝(名号)を選び、快く、一切衆生に授け与えている。そして、次に考慮すべきは、釈迦牟尼の重要性である。この世界に出現した彼は、一代の教説(道教)を明らかに説き示して、群萌を拯い、真実の利益(幸せ)を恵み与えている。こうして、我々は、この経典の法義の最も肝要な事柄(宗致)は、如来の本願であり、その本質は仏の名前(名号)であることを確認する。

釈迦牟尼のこの世界への出現が、如何に大事であったか、を我々はどうして認識するのか？　それによって阿弥陀如来と彼の祈り(弘誓)について我々に知らされるからである。斯して、我々は永遠の生命についての大きな経(大無量寿経)に参入する。仏弟子・阿難が尋ねる。「今日、我々は、世尊の全ての感覚器官(諸根)②に慶び(悦)と満足(予)が現われているのを拝見します。貴方のお顔は光顔巍々として光る鏡のように厳かに輝いています。浄らかな鏡の影が表裏に透き通っているようです。今日のように堂々として妙なる容貌は、未だかつて仰ぎ見たこと(瞻覩)はありません。然り、ああ大聖よ、私は深く心に念じています。今日、世尊は、最も見事な大宇宙の真理(摂理の法)に安住しておられます。今日、世英、至高の真実(最勝の道)に住しておられます。今日、天尊、全ての如来の美徳を成就しておられます。過去・未来・現在の全ての仏たちは、仏と仏と相念じておられます。そして、今ここなる仏も、この瞬間に、諸仏と念じ合っておられるに相違ございません。どうして今、あなたの神々しいお姿に輝く光を拝見しないことがありましょう。」世尊が阿難に尋ねられた。「君のこの質問は、天人のお蔭であるのか、それとも、君自身の心から出て来たのか、私の威厳ある容貌についての問いは。」阿難が答えた。「何も天人に頼っていません。私個人の見解です。世尊よ。」仏陀は言われた。「宜しい、阿難よ。私は大変嬉しい。君自身の深い智慧から出て来ている。しかも、雄弁にして正直に表明されている。一切衆生への愛に溢れている。如来は、いかなることにも覆い隠されることのない大慈悲心をもって三界③を矜哀している。この世界に出興した理由は、道教を開いて説示し、群萌を拯い、真実の利益を恵み与えることである。併し、その如来との出会いは、計ることが不可能といえるほどの長い時間(kalpa. 劫)に、一度だけ体験できる絶好の機会である。まるで、滅多に花の咲かない霊瑞華(優曇華)が時を得て出現したのに似ている。君の問いは、天上・天下の一切衆生の心を開き、間違なく、多大な利益を齎すことだろう。阿難よ、君は如来の至高の悟り(正覚)は、量り知れない知識をもち、一切衆生が暗闇から光明へ転換する方法を知っているに違いない。真理への彼の明察は、何の妨害も知らないであろう。彼を邪魔できるものは何もないのだから。」

永遠の生命についての如来の集会(無量寿如来会)で言われている。阿難が仏陀に言った。「世

尊よ、私は、如来の光瑞（光明の輝く素晴らしいお姿）を目撃することは滅多にないことですから、この念を興すのです。従って、諸天の誘導によるものではありません。」仏陀が答えた。「結構、結構。君自身の観察眼と鋭敏な知性の賜物です。私は本当に嬉しい。応供④・等正覚などとも呼ばれ、大慈悲心に安住している全ての如来（tathāgata）は一切衆生を救済することを目指している。よって、今、大士（釈尊）の姿をとってこの世界に出現していますーこれは、優曇華という植物の花が咲いたのと同じほど稀有な出来事です。更に君は、一切衆生への思いやりのある心を忘れずにいる。彼らを救い、喜びを与えようとしている。これによって、如来に如是の義（摂理・天性）の質問をしたのです。」

普遍的悟りの経（平等覚経）において、仏陀が阿難に言われた。「優曇鉢樹として周知の植物がこの世界にあります。如何なる花もつけずに実を生らす。仏陀は今、この世に現われ、今まさに花が咲かんとしている。仏陀がこの世にいる間でさえ、彼に会うことは稀なことです。私は仏陀としてこの世に来ました。君は非常に徳が高く、知性と善意に恵まれています。既に仏陀の智慧が何であるか、を理解している。仏陀の側に居て、彼に仕えている。だから、よく聴くことができるのです。」

憬興師（述文賛）が、大経からの引用文で論詳している。「今日世尊住奇特法」、これは、仏陀が彼の奇跡的な力（神通輪⑤）によってはっきり示す仏陀の相である。彼は他人と異なるだけでなく、彼と較べられるものは永遠にでてこない。「今日世雄住仏所住」、これは、普等三昧⑥に住して、最強の神通力をもつ衆魔雄健天（欲界の第六天の魔王）を含めて、全ての悪霊が彼によって制圧される。「今日世眼住導師行」、これは、五眼⑦を備えている仏は、指導者の行と呼ばれる。よって、一切衆生を指導する方法を正確に知っている。「今日世英住最勝道」というのは、仏は四智⑧に住していて、至高の真理（正覚）を体現し、全てに独立している。彼に匹敵するものは誰もいない。最勝の道であるから。「今日天尊行如来徳」というのは、全て、如来の美徳を実践している。即ち、如来は、全ての天において最重要な存在（第一義天）⑨である。何故なら、仏性は実在そのもの（仏性不空）⑩であるから。「阿難当知正覚」というのは、おお、阿難よ、君はきっと如来の正覚を知っている。最も素晴らしい本性である真理（奇特の法）への彼の洞察眼は何の障害も知らない（慧見無碍）であるから。

こうして、我々は、これら全ての引用文は、大無量寿経は、紛れもなく、真実の教を顕す明証であることを、理解する。そして、この経は、如来興世の正説（釈迦牟尼のこの世界への出現の目的を正しく描写）していること、奇特最勝の妙典（最もすぐれた特性を顕す素晴らしいお経）であること、何ものも凌駕できない一乗（ekayāna）究竟極説（一切衆生を悉く仏の悟りに至らせる絶対的乗り物の、究極の教え）であること、速疾円融の金言（即刻の効果のある黄金の言葉）、十方称讃の誠言（十方の全ての仏たちによって発せられたまことの誉め言葉）、時機純熟の真教（現代の、今・ここなる機）にとって完全に円熟した真実の教えである、ということを理解します。

（明静庵主）

註①　回向（paṇṇāmanā）阿弥陀如来が、本願力をもって、その功徳を衆生に振り向けること

註②　諸根（眼・耳・鼻・舌・身の五種の感覚器官）

註③　三界（一、欲界・二、色界・三、無色界）

註④　如来の十号（一、応供・二、等正覚・三、明行足・四、善逝・五、世間解・六、無上士・七、調御丈夫・八、天人師・九、仏・十、世尊）

註⑤　三輪（一、神通輪・二、説法輪・三、記心輪）

註⑥　普等三昧（無量の諸仏を同時にあまねく等しく見る禅定）、三昧（最高我への深い瞑想）

註⑦　五眼（一、肉眼・二、天眼・三、法眼・四、慧眼・五、仏眼）

註⑧　四智（一、大円鏡智・二、平等性智・三、妙観察智・四、成所作智）

註⑨　五天（一、世天〈世間の人王〉・二、生天〈天界の諸天〉・三、浄天〈声聞・縁覚〉・四、義天〈菩薩〉・五、第一義天〈仏〉即、真如仏性を悟る）

註⑩　仏性不空（仏性は無量の徳用をもち常住である、実在そのもの）

二〇二五年（令和七年）
春爛漫の四月初旬

〒731-0135
広島市安佐南区長束一丁目十八-五-五

令和７年度

支　部　長　会　報　告

１　日　時　　令和７年６月７日㈯

２　場　所　　校友会館２Ｆ　サロン

３　日　程　⑴　開会のことば

⑵　会長挨拶…髙橋治郎会長

⑶　教育学部長挨拶・講話…日野克博学部長

⑷　各支部長及び理事自己紹介

⑸　議事

議長選出　　松山支部：中矢達雄校長

１号議案　　令和６年度事業報告

２号議案　　令和６年度決算報告

監査報告…監査人欠席のため議長代読

３号議案　　令和７年度本部役員改選案について

４号議案　　令和７年度事業計画案について

５号議案　　令和７年度予算案について

６号議案　　令和７年度支部助成金案について

７号議案　　令和７年度支部活動支援費について

８号議案　　支部の現状報告及び事務局からの提案事項

・各支部におけるＯＢ会員の把握状況及び会報配布方法について

・会報発行回数について　　・発行方法について

・支部ＯＢ会員の事務局一元管理について

９号議案　　第20回愛媛大学教育学部同窓会懇親会について

10号議案　　その他

・会報原稿担当支部予定案について

議長退出

⑹　連絡事項　　第16回ホームカミングデーについて

⑺　閉会挨拶…奥定一孝顧問

事務局への連絡方法について

配付資料１　　愛媛大学教育学部同窓会会則

資料２　　支部活動支援金交付要綱及び様式

資料３　　令和７年度愛媛大学教育学部同窓会役員一覧表

４　概　要

今年度の支部長会は支部長22名（支部長代理３名含）と本部役員16名の計38名の参加のもと事務局からの提案議題（１号議案～ 10号議案）について協議を行い、全ての議案について承認を得ることができた。

挨拶・講話・協議概要については、以下に簡単に示す。

⑴　髙橋会長挨拶：若い人を引き入れて、会員みんなで地域貢献及び大学を盛り上げ、教育の推進に努めていきたい。

⑵　日野学部長講話：①教育を取り巻く状況　②社会からの要請　③アクセスの確保　④次期学習指導要領に関して　⑤愛媛大学が頑張っていることについて話していただいた。最後に地域に輝く大学を目指して同窓会にも積極的に参加させていただきたいとのお言葉をいただいた。

⑶　各支部長及び理事自己紹介：各支部長からは支部の実情について簡単に紹介していただいた。

- 現職教員に愛媛大学教育学部の卒業生が少なくなっている。
- ＯＢは多いが、若手教員が少ない。
- 子どもが減少し、統合化が進んでいる。
- 管理職に愛大出身者の割合が減っていて、支部長引き継ぎに苦慮している。
- 地域の活力に教員の影響は大きいため、愛大と連携して教員を育てていきたい。

等の話をいただいた。

⑷　議事：議長に松山市立新玉小学校中矢達雄校長を選任し、以後議案にしたがって協議を進めた。なお、８号議案と10号議案については、関連性があるため９号議案と順序を入れ替え、一括で審議を行った。

○１号議案・２号議案・監査報告については一括で審議し、全員の承認を得る。

※監査報告については、監査人が欠席のため出席者の承認を得て議長が監査報告書を代読した。

○３号議案・４号議案・５号議案については一括で審議し、全員の承認を得る。

○６号議案について審議し、全員の承認を得る。

○７号議案・９号議案については審議事項ではないため事務局長より説明を行い、周知を図った。

○８号議案については、基本的には一元化に承認を得た。会報配布方法及び本人の承諾等については各支部から様々な意見が出て、引き続き理事会で検討することとなった。

○10号議案について審議し、全員の承認を得る。

⑸　その他：11月開催予定の校友会主催第16回ホームカミングデーの日時と簡単な概要の説明を行った。また、ホームカミングデーに先立ち実施予定の「同窓会を語る会」についても期日と申し込み方法の説明を行った。

⑹　奥定顧問挨拶：意見交換のできる場になっていてありがたく思っている。今後も同窓会報の充実を図ることが地域貢献につながる。また、教育学部にできるだけ関心をもち、底辺から育てていただきたいとのお言葉をいただいて、閉会となった。

令和６年度　事　業　報　告

４．８(月)	令和６年度入学式	学部生・院生・編入生　　計226名
４．19(金)	第１回常任理事会	第１回理事会提出議題審議
５．11(土)	第１回理事会	令和６年度本部役員案審議 令和５年度事業及び決算報告 令和６年度事業計画案及び予算案審議
６．８(土)	支部長会	令和６年度本部役員案審議 令和５年度事業及び決算報告 令和６年度事業計画案及び予算案審議 令和６年度支部助成金案等確認
６．14(金)	第１回編集委員会	会報138号最終確認・校正
７．１(月)	同窓会報138号発行	会報発送作業（7,500部）
７．３(水)	第２回編集委員会	会報139号のレイアウト確認
７．19(金)	第２回常任理事会	第２回理事会提出議題審議
	支部活動支援金申込締め切り	各支部において教育学部名で後援・賛助できるもの
７．27(土)	第２回理事会	支部活動支援金及び前期事業報告
８．25(日)	第19回教育学部同窓会懇親会	教育学部発足75周年記念(参加者数96名)
11．９(土)	第15回愛媛大学ホームカミングデー	教育学部同窓会参加(参加者数12名)
	同窓会を語る会	同窓会事業の今後について(参加者数８名)
11．14(木)	学部サポーター制による講義	教育学部卒業生福井一恵氏による講演
12．18(水)	第３回常任理事会	第３回理事会提出議題審議
１．15(水)	第３回編集委員会	会報139号最終確認・校正
２．１(土)	第３回理事会	年間事業の反省　新年度事業計画案について
２．10(月)	同窓会報139号発行	会報発送作業（7,500部）
２．28(金)	第４回常任理事会	令和６年度事業反省、次年度重点活動目標設定について
３．24(月)	令和６年度卒業式	学部生（170名）・院生（70名）計240名
３．26(水)	令和６年度会計監査	監事２名による会計監査

令和７年度　事　業　計　画

４．８(火)	令和７年度入学式	学部生（169名）編入生（２名）・院生（68名）　計239名
４．18(金)	第１回常任理事会	第１回理事会提出議題審議
５．10(土)	第１回理事会	令和７年度本部役員案審議 令和６年度事業及び決算報告 令和７年度事業計画案及び予算案審議
６．７(土)	支部長会	令和７年度本部役員案審議 令和６年度事業及び決算報告 令和７年度事業計画案及び予算案審議 令和７年度支部助成金案等確認
６．13(金)	第１回編集委員会	会報140号最終確認・校正
７．１(火) ７．２(水)	同窓会報140号発行	会報発送作業（7,500部）
７．４(金)	第２回編集委員会	会報141号のレイアウト確認
７．18(金)	第２回常任理事会	第２回理事会提出議題審議
７．26(土)	第２回理事会	前期事業報告及び第20回懇親会関係
10．31(金)	支部活動支援金申込締め切り	各支部において教育学部名で後援・賛助できるもの
11．８(土)	第16回愛媛大学ホームカミングデー	教育学部同窓会参加
	同窓会を語る会	同窓会事業の今後について
11．　(未)	学部サポーター制による講義	教育学部卒業生による講演
12．12(金)	第３回常任理事会	第３回理事会提出議題審議
１．14(水)	第３回編集委員会	会報141号最終確認・校正
２．２(月) ２．３(火)	同窓会報141号発行	会報発送作業（7,500部）
３．６(金)	第４回常任理事会	令和７年度事業反省、次年度重点活動目標設定について
３．14(土)	第３回理事会	年間事業の反省　新年度事業計画案について
３．24(火)	令和７年度卒業式	学部生・院生・編入生　　約240名
３．　(未)	令和７年度会計監査	監事２名による監査

令和6年度決算書

単位:円

(収入の部)

費　目	本年度予算	本年度収入	増　減	摘　要
1. 会　費	4,100,000	4,100,000	0	入会者(205名)@20000
2. 寄　付	150,000	319,640	169,640	寄付金・送料等
3. 雑 収 入	20,000	106,293	86,293	利息・校友会補助等
4. 繰 越 金	2,237,905	2,237,905	0	
計	6,507,905	6,763,838	255,933	

(支出の部)

費　目	本年度予算	本年度支出	増　減	摘　要
1. 会 議 費	150,000	113,614	36,386	支部長会・理事会等
2. 旅　費	450,000	387,000	63,000	支部長会・理事会等
3. 印 刷 費	1,400,000	1,320,770	79,230	会報年2回等
4. 通 信 費	450,000	178,916	271,084	会報発送、連絡費
5. 給 与 費	1,600,000	1,600,000	0	
6. 備 品 費	150,000	30,440	119,560	
7. 消耗品費	100,000	72,532	27,468	封筒、ラベル、コピー代等
8. 支部助成費	420,000	354,515	65,485	
9. 卒業記念費	480,000	431,200	48,800	電波時計245個(予備込)
10. 国際交流基金	200,000	200,000	0	
11. 懇親会補助費	250,000	109,651	140,349	
12. 支部活動支援費	300,000	100,000	200,000	芸能・文化支援等
13. 学部活動支援費	100,000	50,770	49,230	
14 雑　費	57,905	50,413	7,492	職員録・環境整備費他
15. 予 備 費	400,000	52,000	348,000	
計	6,507,905	5,051,821	1,456,084	

残　高	1,712,017	(次年度への繰り越し)

監査の結果、収支は明瞭で、帳簿の記載及び使途共に正確に処理されており、証拠書類も完備されていて、適正であることを認めます。

令和 7 年 3 月 26 日

会計監査　宮脇克彦　印

大久保礼子　印

令和７年度　予　算　書

(収入の部)　　(単位：円)

費　目	本年度予算	昨年度予算	増　減	摘　要
１.会　費	4,100,000	4,100,000	0	予定入会者（205名）@20,000
２.寄付・会報送料	150,000	150,000	0	寄付金・会報送料等
３.雑 収 入	600,000	20,000	580,000	校友会補助・利息・積立解約金等
４.繰 越 金	1,712,017	2,237,905	△ 525,888	
計	6,562,017	6,507,905	54,112	

(支出の部)

費　目	本年度予算	昨年度予算	増　減	摘　要
１.会 議 費	150,000	150,000	0	支部長会・理事会等
２.旅　費	450,000	450,000	0	支部長会・理事会等
３.印 刷 費	1,400,000	1,400,000	0	会報年２回(封筒印刷込)
４.通 信 費	450,000	450,000	0	会報発送・連絡費
５.給 与 費	1,600,000	1,600,000	0	事務局二人体制
６.備 品 費	150,000	150,000	0	システム・ソフトverup等
７.消耗品費	100,000	100,000	0	インク・タックシール・文具類代等
８.支部助成費	420,000	420,000	0	
９.卒業記念費	450,000	480,000	△ 30,000	
10.国際交流基金	200,000	200,000	0	
11.懇親会補助費	250,000	250,000	0	懇親会補助
12.支部活動支援費	300,000	300,000	0	芸能・文化支援等
13.学部活動支援費	100,000	100,000	0	学部サポーター活動支援等
14.雑　費	142,017	57,905	84,112	学生等謝礼　玄関環境整備費
15.予 備 費	400,000	400,000	0	
計	6,562,017	6,507,905	54,112	

※△は減額を示す

令和７年度　役　員　表

愛媛大学教育学部同窓会

本部	顧問	日野克博・奥定一孝	監事	宮脇克彦	事務局	阿部修一	
	会長	高橋治郎		中矢達雄		矢野裕司	
	副会長	井上洋一	村上朋子	阿部晋			
		桐山真美	矢野裕司				
	理事	青野多喜夫	竹上正也	和田和子	後藤陽三	山本千鶴子	
		辻井芽美子	齊藤照夫	白石久美子	渡邊恵理	金築治美	
		久保田貴章	相原郁子				
		川本孝	藤谷素三子	石川圭	越智政英	三神琴美	
		豊田高広	村上美樹				

	支部名	支部長		副支部長			
県内支部	川之江・新宮	石川佳代子	上分小	篠原隆輔	川之江南中	西川早知子	上分小
	伊予三島	毛利雅彦	松柏小	渡部振一郎	三島西中	加地孝昌	松柏小
	土居	星野尚子	長津小	山内順子	土居中	青木聡	長津小
	新居浜	小野英雄	神郷小	鴨田礼子	船木小	丸山律子	宮西小
	西条	山内雅博	神戸小	杉山安隆	氷見小	前田禅志	西条小
	東予・周桑	山田裕之	壬生川小	杉野学	周布小	石橋恵美	徳田小
	今治	川﨑文一	清水小	三好春彦	吹揚小	山口峰松	近見中
	今治・越智	菅洋二	朝倉小	近藤勲	菊間中	白石建彦	弓削中
	北条	川西潤	粟井小	檜垣賢志	河野小	河野和正	立岩小
	松山	中矢達雄	新玉小	窪田良知	素鵞小	森脇和夫	勝山中
	東温	橋本英樹	川上小	熊田堅	西谷小	松本俊秀	川内中
	伊予	髙石達也	南山崎小	小林智洋	佐礼谷小	灘岡雅人	郡中小
	上浮穴	佐藤太	久万中	稲垣文	久万小	高市秀昭	父二峰小
	大洲	飯野剛宏	肱川小	長谷晃徳	大洲小	岩本康孝	長浜小
	喜多	宮部修一郎	大瀬中	大盛通	小田中	岡田拓也	天神小
	八幡浜	河野靖	八幡浜中	浮田和人	白浜小	河野恵子	真穴小
	西宇和	井上太	伊方中	松本啓進	伊方小	大石友紀	三机小
	西予	三好則史	三瓶小	青木志郎	宇和町小	上田徳彦	石城小
	宇和島	髙野良二	三浦小	薬師寺由佳	下灘小	越智夫実由	清満小
	北宇和	松本智昭	泉小	水野由美	松野西小	上甲和典	日吉小
	南宇和	清水美和	一本松小	鉾岩俊二	城辺中	好岡裕子	篠山中
	附属	川本孝	附属特支	石川圭	附属特支	越智政英	附属特支

県外支部	東京	令和５年度～連絡不能	
	京都	河野直樹	
	大阪	令和４年度３月解散	
	神戸	平山昇	
	岡山	神﨑順治	内田二三夫

編集委員	村上朋子	阿部晋	矢野裕司
	阿部修一		

愛媛大学教育学部同窓会　支部活動支援金交付要綱

第1条【目的】この要綱は、愛媛大学教育学部同窓会（以下「愛教同窓会」という。）会長が、「愛教同窓会」活動の振興と支部活動の活性化を図るため、各支部及び支部に属する会員が行う自主的な活動に対して、予算の範囲における支援金交付に必要な事項を定めるものとする。

第2条【支援金申請者】本事業の申請者は、支部長とする。

第3条【支援金対象事業及び支援額】本事業の対象となる事業活動及び支援金額は審査会（常任理事会）において審議する。

第4条【支援金申請手続き】本事業支援金を受けようとする支部及び支部に属する会員は、「愛教同窓会」会長が定める期間内に、下記書類を「愛教同窓会」事務局に提出しなければならない。

(1)　支部活動申請書　（様式第1号）

(2)　その他、必要と認める添付書類

第5条【支援金の交付決定】「愛教同窓会」会長は、前条の規定による申請を受理した場合、その内容をすみやかに審査し、常任理事会の意見を聞いて支援金の交付を決定するものとする。

2　「愛教同窓会」会長は、前項の規定により支援金の交付を決定したとき、すみやかにその旨を申請者に通知するものとする。

第6条【支援金の交付請求】支援金の交付決定を受けた申請者は、すみやかに支援金交付請求書（様式第2号）を「愛教同窓会」会長に提出しなければならない。

第7条【支援金の支払い】「愛教同窓会」会長は、申請者から交付請求書の提出があった場合、書類受理後常任理事会を経て交付する。

第8条【活動実績報告および決算報告】支援金を受けた申請者は、支援事業の交付決定にかかる年度の11月30日までに、下記の書類を「愛教同窓会」会長に提出しなければならない。

(1)　支部活動報告書（様式第3号）

(2)　会報掲載のための原稿（A4用紙1枚）

第9条【交付の取り消しまたは返還】「愛教同窓会」会長は、次の各号いずれかに該当する場合は、交付決定の全部または一部を取り消し、支援金の全部または一部を返還させることができる。

(1)　支援金の交付申請に不正の事実があったとき

(2)　支援金を目的以外の用途に使用したとき

(3)　支援事業を中止したとき

(4)　支援事業を遂行する見込みがなくなったとき

(5)　この要綱に違反したと認めたとき

(6)　実績額が支援金交付額に満たないとき

第10条【その他】この要綱に定めるもののほか、支援金交付に関する必要な事項は、「愛教同窓会」会長が別に定める。

（様式第1号）

年　月　日

愛媛大学教育学部同窓会
会長　高橋　治郎　様

愛媛大学教育学部同窓会　支部
支部長　印

愛媛大学教育学部同窓会支部活動支援金申請書

支部名							
活動名							
活動予定日時							
参加会員数	現職	人	その他	人	総計		人
（予定数）	OB	人					
支部の活動目的・内容 （活動目的・内容をできるだけ簡潔に記入　※詳細は計画書添付のこと）							
目的							
整理・共催							
内容	※大まかに記入後、実施計画書を添付						
予算書	※大まかな予算額を記入後、受けたい支援金額を記入　予算書添付のこと 希望支援金(最大額を記入)　円 ※ただし、手数料込の金額とする。						
本件連絡先	Email：dosokai.ed.ehime@gmail.com　　℡　089-927-9383(月・水・金の午前中)						

（様式第2号）

年　月　日

愛媛大学教育学部同窓会
会長　高橋　治郎　様

愛媛大学教育学部同窓会　支部
支部長　印

愛媛大学教育学部同窓会支部支援金請求書

活動名				
活動日時	年　月　日(　)　：　～　：			
請求金額				
ー金				
上記金額を支部支援金として請求いたします。				
代表者(担当責任者名)　印				
振込先	金融機関名	支店名	口座名	口座番号

（様式第1号）

年　月　日

愛媛大学教育学部同窓会
会長　高橋　治郎　様

愛媛大学教育学部同窓会　支部
支部長　印

愛媛大学教育学部同窓会支部活動支援金申請書

支部名							
活動名							
活動予定日時							
参加会員数	現職	人	その他	人	総計		人
（予定数）	OB	人					
支部の活動目的・内容 （活動目的・内容をできるだけ簡潔に記入　※詳細は計画書添付のこと）							
目的							
整理・共催							
内容	※大まかに記入後、実施計画書を添付						
予算書	※大まかな予算額を記入後、受けたい支援金額を記入　予算書添付のこと 希望支援金(最大額を記入)　円 ※ただし、手数料込の金額とする。						
本件連絡先	Email：dosokai.ed.ehime@gmail.com　　℡　089-927-9383(月・水・金の午前中)						

部活動紹介

愛媛大学サイクリング部

〈サークル紹介〉

私たち愛媛大学サイクリング部は、現在男子五十名、女子九名の計五十九名で活動しています。（令和七年五月現在）

愛媛大学サイクリング部は毎週土曜日の午前九時から活動を行っています。松山市を中心としつつ、愛媛各地に自転車で訪れ、愛媛の食べ物や文化を楽しんでいます。また火・木の十九時半からはトレーニングに重きを置いた夜練を行っており、山や長距離を走るときに必要な筋力、体力をつけています。また部員同士が集まってライドを企画したり、筋トレをしたりするなど自主的に、また積極的に活動を行っています。数年前に大流行した新型コロナウイルスの影響で活動が大幅に縮小し、昔から毎年行ってきた様々なイベントが開催できない時期もありましたが、現在は活動の制限もなくなったため恒例行事を復活させるだけでなく、今までになかった企画を行うなどこれまで以上に活発的に活動を行っています。

サイクリングはだれでも気軽に始められますし、自転車やヘルメットも貸し出しが可能なので興味がある方はぜひ愛媛大学サイクリング部に連絡をお願いします！

夕焼けこやけラインからの景色

〈活動状況〉

愛媛大学サイクリング部は、毎年ゴールデンウィークに新入生歓迎の意味も込めてロングライドを行っています。去年は松山～内子～大洲～八幡浜～松山のおよそ百五十kmに及ぶライドを行ってきました。内子では内子座の見学を行い、八幡浜では塩パン発祥のパン屋を訪れ、松山に帰る途中の夕焼けこやけラインでは美しい夕日と海を眺めながら走るなど非常に充実したライドになりました。新入生たちにとっては入部してすぐのロングライドであり、道中ではきつい上り坂なども多くありましたがなんとか無事全員完走することができました。

また十月には三坂タイムトライアルを行いました。これは砥部町から久万高原へとつながる三坂峠を、交通安全を最優先しつつOBの方を交えてその登坂タイムを競うというものです。三坂峠は斜度が大きい登坂が長く続くため、試走を行うなど全員が練習を行い、挑みました。しかしOBの方の力強い走りにより多くの部員は負けてしまいました。しかし部員たちはこのタイムトライアルでOBの方たちの熟練された走りを見ることで自転車に対するモチベーションアップにつながりました。またこの三坂タイムトライアルではOBの方と自転車に乗るだけでなく、積極的にコミュニケーションをとることで、当時のサイクリング部の活動や、今のサイクリング部の様子などをお互いに情報交換することで非常に有意義なイベントになりました。

十一月には北条にある鹿島でキャンプを行いました。キャンプが好きな部員も多く存在しているため定期的にキャンプも行っています。しかし私たちは車ではなく寝袋やテントなどのキャンプ用品は自転車に括り付けて向かいました。鹿島では、お昼ごはんにパスタを作り、テント設営などのキャンプ準備を終えるとそこから焚火を囲い、お菓子やラーメンを食べながら翌朝まで語り合いました。サイクリング部はこのような雑談を通して仲を深めていく部員がとても多いので、部員と楽しくしゃべる時間を大切にしています。このキャンプを通じて部員同士の絆をより深めることができました。

キャンプ出発前

今紹介したもの以外にも鈍川温泉ライド、パン屋巡りライド、阿歌古渓谷ライドなど自然や食べ物が楽しめるサイクリングをたくさん行いました。さらに学祭などの学校行事にも参加して餃子や水餃子を販売したり、記録会やレースへ出場したりするなど精力的に活動を行うことができました。今年も様々なライド・イベントを予定しているのでそれらに向けて企画の準備や日々の練習をしっかりと行っていきます。これからも自転車を通じて、様々なことを経験できる有意義な部活にしていきます。

最後になりますが、日頃から愛媛大学サイクリング部に、ご支援・ご声援頂きありがとうございます。今後もサイクリング部の更なる発展に向けて日々の活動に真摯に励んでいきたいと思います。

三坂タイムトライアル

校友会からのお知らせ

愛媛大学校友会 中国支部 第3回定時総会・懇親会について

今秋１０月
愛媛大学校友会中国支部
第３回定時総会・懇親会
を左記のとおり開催いたします。

※　なお二次元コードによる申込みは８月25日(月)以降です。
詳しくは校友会ＨＰをご覧ください。

第16回ホームカミングデーについて

期日　令和７年１１月８日（土）
会場　愛媛大学南加記念ホール
日程　15：00　記念式典
記念講演　etc
17：00　懇親会
於：大学生協１Ｆ

※ 詳しくは校友会ＨＰをご覧ください
８月中旬以降掲載予定です

教育学部同窓会からのお知らせ

会報送付について

会報は、教育学部に関する行事や情報、また会員から送られてくる情報等を掲載し、毎年七月と二月の年二回発行しています。

皆さんにお届けする方法としましては、県外在住の方は事務局からの直接郵送、愛媛県内在住の会員の方は、基本居住されている小学校区の担当者からお届けしています。しかし、希望があれば事務局からの直接送付も選べます。その際は左記の「送料納付」を参考にしてください。ただ、切り替えには、時間がかかる場合があります。その間、小学校区からと事務局からの二冊届くこともあります。ご了承ください。

会報の送料納付について

会報の個人宛発送は、**送料を各自で負担**していただくことになっております。出費多端の折柄恐縮ですが、未納の方は、左記要領で納付方お願い申し上げます。

記

①一年間五〇〇円で、二年間分ずつ収めるようになっています。

②二年ごとの更新は、煩さなので、何年間かを、まとめられる方もあります。

納付期限　毎年三月三十日までとし、二年毎に更新する。

送金方法　郵便為替・現金書留・郵便振替で

振替口座番号

〇一六四〇―七―二七五四

送り先　〒七九〇―八五七七

松山市文京町三

愛媛大学教育学部同窓会

領収書は、振替用紙をもって、かえさせていただきます。

振替用紙には、左記のように「懇親会会費」「会報送料」「寄付」と記載しています。送金の際には、該当の項目に✓をいれてください。なお、恐れ入りますが、卒業された年もご記入をお願いします。

用紙は同窓会懇親会が開催される年の二月発行の会報にチラシと一緒にはさんでお届けしますが、必要な場合は郵送いたします。郵便局でも常備されていますが、前述の記載はしていない用紙になります。また、郵便局で記入して送る場合は赤色の振替用紙をお使いください。

会報送付停止等について

会報送付の停止を希望する場合には、下記の２つの方法があります。

①　送料を振込み、事務局から送付している場合

会報表紙に記載されている事務局に連絡いただければ、次の号から送付が停止します。なお、連絡の際には封筒に貼ってある氏名右下にあるＩＤ番号とお名前をお伝えください。事務局員は、基本月から金の午前中業務についています。これらの日以外は留守電対応となりますので、特にＩＤ番号をお伝えください。

②　校区の小学校から送付されている場合

住まわれている住所を校区とする小学校の「愛媛大学教育学部同窓会担当者」に連絡すれば、会報の送付は停止します。事務局に連絡いただいても構いませんが、その際には「氏名と校区小学校」をお伝えください。事務局から該当小学校担当者に連絡いたします。

③　会報が２部届く場合

会報が２部届く場合があるかと思いますが、事務局からと校区小学校から届いていると考えられます。前述のように事務局から送付している場合は、送料が振り込まれている会員となりますので、恐れ入りますが校区小学校担当者に連絡をして停止をお願いしてください。

④　住所が変わった場合

住所が変わった場合には、事務局まで連絡をお願いいたします。また、送付しても２号（回）続けて「住所不明」で返送されてきた場合には、送付を停止しております。

「最近会報が届かない」と言われる場合は事務局に連絡をお願いします。

第20回愛媛大学教育学部同窓会懇親会について

概　要

〇現在令和8年8月開催を目指して準備を進めております。詳細は令和8年2月の会報に挟むチラシをご覧ください。

期日予定　第1候補日　令和8年8月23日（日）11:30～14:00
　　第2候補日　令和8年8月22日（土）11:30～14:00

会　　場　会場は松山市内のホテルを予定しております。

備　　考　来年は教育学部の前身である師範学校・青年師範学校・女子師範学校等が発足して150周年にあたるため記念誌発刊を計画しています。その際には資料等ご協力をお願いします。

放送大学入学生募集のお知らせ

放送大学では二〇二五年十月入学生を募集中です。

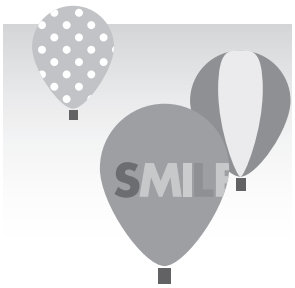
〈募集期間〉二〇二五年六月十日（火）～二〇二五年九月十一日（木）

放送大学はインターネットやテレビなどの放送を利用して自宅で学べる通信制の大学です。

放送大学では心理学・福祉・文学など幅広い分野を学べますが、同窓会員特に現職の方々は次に掲げる教育関係の免許資格取得などができます。

○　放送大学の大学院を利用して、専修免許状の取得が可能です。
○　放送大学の科目を利用して、特別支援学校教諭免許状の取得が可能です。
○　放送大学の科目を利用して、司書教諭資格の取得が可能です。

資料を無料で差し上げております。お気軽に愛媛学習センターまでご請求下さい。



放送大学
教養はエネルギーだ。
一科目からでも学べます
２０２５年度１０月入学生募集中！
（2025年9月11日まで）
問合せ先　愛媛学習センター
TEL 089－923－8544
●インターネットで資料請求・出願できます。　●資料請求はこちら（総合受付）
放送大学　www. ouj. ac. jp　043－276－5111

祝・叙勲

（令和七年四月二九日）

春の叙勲
☆瑞宝双光章
教育功労

福本　純一　様

堀内　秀樹　様

寄付者名

令和七年二月～令和七年六月

河合　淳　様

※ 同窓会へのご寄付ありがとうございます

敬弔（物故会員）

（死亡年月日）	（氏　名）
5・3・19	藤原　宏幸（平7・愛　大）
6・8・17	兵頭　照子（昭31・愛　大）
6・8・19	中村　正義（昭36・愛　大）
6・10・29	岡田　潤（昭38・愛　大）
6・12・19	佐川　虔三（昭36・愛　大）
6・12・27	石堂　鹿夫（昭26・愛　大）
6・12・31	住田　功（昭36・愛　大）
7・1・6	井出　政寛（昭28・愛　大）
7・1・15	松田　経子（昭41・愛　大）
7・1・16	橋本　怜（昭32・愛　大）
7・3・26	井上　征生（昭41・愛　大）
7・4・2	土居　泰正（昭34・愛　大）
7・4・5	管　薫明（昭28・愛　大）
7・4・5	満田　泰三（昭25・青　師）
7・4・15	宇都宮　宏明（昭38・愛　大）
7・4・21	松岡　廣（昭38・愛　大）
7・5・1	岡崎萬太郎（昭24・愛　師）
7・5・4	西川　保徳（昭33・愛　大）

会員写真館

今回は高知県にある「モネの庭」に咲く青い睡蓮の花を見に出かけてみました。残念ながら時期が早くて青い睡蓮の花は咲いていませんでしたが、赤や白の睡蓮は花が咲き始めており、楽しむことができました。
また、庭内には約2000種の花を池の回りに植えているだけあって、多種多様の花を楽しむことができ、ゆったりとした癒やしの時間を過ごすことができました。

モネの庭に咲く睡蓮

モネの絵画のレプリカと庭

ボルディゲラの庭

準会員作品紹介

掲載の絵画は準会員の皆さんの作品です。今後も準会員の皆さんの作品を紹介していきたいと思います。

勝間田亜海
「気球さん、おはよう!」

曽我部彩乃
「POP UP STORE USANGA THE UNIVERSE」

武田　亜弓
「慈愛の手」